

県内の主な活断層と調査実施状況

| 断層名 (長さ) | 調査時期 | 最新活動 時期 | 再来 間隔 | 調査結果 | |
|---|--|--------------------------------|------------------------|---|---|
| ①伊勢原断層 (約 21km) | 平成 7～8 年度 県 調 査 | 5～18 世紀 初頭 | 4000 ～ 6000 年 | マグニチュード 7 程度の地震が発生すると推定される。その際、東側が西側に対して約 2m 程度高まる段差や撓みが生じる可能性がある。 | |
| ②秦野断層 (秦野断層：2.8km、下宿 断層：2.3km、八幡断層： 1.4km、戸川断層：0.7km、 三屋断層：0.6km) | 平成 9～10 年度 県 調 査 | 約 1.7 万年前 またはそれ 以降 | 不明 | 少なくとも約 1.7 万年前にまたはそれ以降に活動している。ただし、国府津－松田断層帯の活動に付随して活動する可能性がある。 | |
| ③渋沢断層 (渋沢東断層：5.4km 渋沢西断層：1.7km) | 平成 9～10 年度 県 調 査 | 1 万年前以降 に活動した 可能性が高 い | 不明 | 活動時期は明らかではないが、国府津－松田断層帯の活動に付随して活動する可能性がある。 | |
| 三 浦 主 島 断 層 群 | ④衣笠・北武 断層帯 (14km+海域) | 平成 11～ 12 年度 県 調査 | 6～7 世紀 | 1900 ～ 4900 年 | 少なくともマグニチュードが 6.7 程度の地震が発生すると推定され、その時のずれの量は 1 m 程度となる可能性があるが、他のデータをもとに計算により求めると、マグニチュード 7.0 程度もしくはそれ以上、ずれの量が 2 m 程度もしくはそれ以上となる可能性もある。 |
| | ⑤武山断層帯 (11km+海域) | | 2300 ～ 1900 年前 | 1600 ～ 1900 年 | マグニチュード 6.6 程度もしくはそれ以上の地震が発生すると推定され、その時のずれの量は 1 m 程度もしくはそれ以上となる可能性がある。 |
| 三 浦 南 半 島 断 層 群 | ⑥南下浦断層 ⑦引橋断層 (6km+海域) | 平成 11～ 12 年度 県 調査 | 2.6～2.2 万 年前 | 不明 | 全体が一つの区間として活動すると推定され、その際にはマグニチュード 6.1 程度もしくはそれ以上の地震が発生すると推定され、その時のずれの量は 0.5m 程度もしくはそれ以上となる可能性がある。 |
| ⑧小向断層 (約 3km) | 平成 13～ 15 年度 県 調査 | 12～13 万年 前以降 | 不明 | 次の活動は不明だが、地形的には明瞭な活断層である。 | |
| ⑨生沢断層 (約 5km) | 平成 13～ 15 年度 県 調査 | 不明 | 不明 | 次の活動は不明。国府津－松田断層帯の活動に付随して活動する可能性がある。 | |
| ⑩平山－松田北 断層帯 (15km) | 平成 13～ 15 年度 県 調査、平成 21～23 年 度 文 科 省 調査 | 約 2700 年前 | 4000 ～ 5000 年程 度 | 平山断層、内川断層、日向断層、丸山断層、松田山麓断層、松田北断層からなる。本断層帯が一つの区間として活動する場合、マグニチュード 6.8 程度の地震が発生する可能性がある。 | |
| ⑪塩沢断層帯 (約 15km 以上) | 平成 13～ 15 年度 県 調査、平成 21～23 年 度 文 科 省 調査 | 不明 | 800 年程 度以上 | 山北町から御殿場市付近に至る断層帯である。本断層帯が一つの区間として活動する場合、マグニチュード 6.8 程度もしくはそれ以上の地震が発生する可能性がある。 | |
| (⑫国府津－松田 断層帯 (約 35km 以上)) ※プレート境界からの分 岐断層として評価され るようになった。 | 平成 13～ 15 年度 県 調査、平成 21～23 年 度 文 科 省 調査 | 12 世紀以後、 14 世紀前半 以前 | 約 800～ 1300 年 | 国府津－松田断層帯は、大深度反射法弾性波探査の結果からフィリピン海プレートと陸側プレートの沈み込み境界から分岐した断層であると考えられることから、本断層帯が単独で震源断層となることはない。従っていわゆる活断層としての評価はしない。相模トラフで発生する海溝型地震の数回に 1 回の割合で活動すると考えられる。 | |